

高松市教育の情報化 News No.2

Leaflet for Smart School in Takamatsu City

～ 学校教育の情報化に関する情報をいち早く先生方にお届けします ～

情報教育推進パイロット事業 勝賀中学校におけるオンライン授業の取り組み

高松市総合教育センターでは、情報教育推進パイロット事業として、勝賀中学校と東植田小学校の2校をパイロット校に指定し、ICTを活用した教育の在り方に関する調査研究を行っています。本年度は「GIGAスクール構想」の実現に向け、1人1台端末と電子黒板を活用し、「個別最適化された学びの実現」をめざすとともに、「多様な他者とともに新たな価値を創造する」オンライン授業の在り方を探るため、パイロット校による実践研究に取り組んでいます。

今回は、勝賀中学校におけるオンライン授業の取り組みを紹介します。7月2日、高松市総合教育会議の一環として、大西市長や教育委員がオンライン授業について、意見交換を行うために、勝賀中学校において公開授業を行いました。

オンライン授業の内容は、①理科室と2つの普通教室をオンラインでつなぎ、教員が理科室で行う解剖の様子を生徒が見て、学級間で話し合う活動、②1人1台端末で、数学のA1ドリルに取り組む活動、③プロスポーツ選手とオンラインで交流する活動です。生徒一人ひとりが楽しく、真剣に学習に取り組んでいる様子が印象的で、オンライン学習の可能性が実感できた素晴らしい取り組みでした。

協働的
な学び

複数教室への一斉授業



イカの背骨だと思っていたものが軟骨だったことを知りました。イカの血液が青かったのにはびっくりしました。

理科室と2つの教室をオンラインでつなぎ、教員がイカの解剖をしている様子を生徒が電子黒板で見て、別の教室の生徒同士で話し合ったり、教員に質問したりする授業に挑戦しました。生徒が参加している感覚をもてるように、教員と生徒が双方向にやりとりしながら解剖を進めていきました。電子黒板に提示することで、解剖の様子を大きく見せることができました。また、大勢の生徒が参加して、様々な意見を出し合うなどオンライン学習の良さを生かす授業となりました。

個別的な学び

AI学習ドリルに挑戦



PCの使い方が分かるとともに、頭で式を考えることができました。家庭でも活用できたらいいなと思いました。

生徒たちは個々のIDでAI学習ドリルに接続し、個別の学習に取り組みました。採点はAIが行い、教員は教師用の端末から学習状況を把握します。家庭からもアクセスでき、自宅で学習を進めることも可能です。朝学習プリントの代わりに、AI学習ドリルを活用しています。基本・標準・挑戦と3つの難易度があり、得意な生徒はどんどん進み、苦手な生徒は基本問題の内容が自動的に変わって繰り返し出題されるので、何度も解くことで定着を図ることができます。

遠隔システムを生かした学び

プロスポーツ選手と交流しよう



香川ファイブアローズ
安部瑞基選手
(高松市出身)



安部選手のように自分なりに座右の銘を見つけ、何事にも本気で立ち向かえるようにしたいです。

香川ファイブアローズの安部瑞基（あべみずき）選手と各学級をオンラインでつなぎ、交流を通してキャリア教育を行いました。今年度は、職場体験学習を各事業所に訪問して行うことができないので、その代替として今回の交流を行いました。生徒たちが、安部選手だけでなく広報担当の織野さんとも交流できるように、司会進行役の教師の発問や学習の流れを工夫しました。オンラインでつながることで、生徒たちは普段交流が難しいスポーツ選手の話を生き生きとした表情で聞き、積極的に質問もしていました。